

— 降水成分の降下量分布の推定 そのII —

○野口 泉（北海道環境科学研究センター）

全国公害研協議会酸性雨調査研究部会

[はじめに]

平成3年度に引き続き、全国公害研協議会による平成4年度の酸性雨全国調査結果から、ろ過式採取方法による年間採取を行ったデータを用い、広域的な降水成分の降下量分布の推定を行った。解析に当たっては、広域的な推定を行うため、表1に示す山間部などの、いわゆる清浄地域における30地点の調査データを用いた。また、降下量の等値線

表1 解析対象地点

図の作成に当たっては、全国の領域を50×65メッシュに切り、各調査地点を割り振り、各メッシュ

St.	所在地	緯度(°)	経度(°)	St.	所在地	緯度(°)	経度(°)
1	札幌市	42.9	141.3	16	福井県勝山市	36.1	136.6
2	北海道登別市	42.5	141.2	17	福井県越前村	36.1	136.0
3	青森市	40.7	140.9	18	山梨県身延町	35.4	138.5
4	青森県六ヶ所村	40.9	141.3	19	京都市	35.0	135.6
5	青森県名川町	40.4	141.3	20	兵庫県池賀町	35.2	134.5
6	秋田市	39.8	140.2	21	奈良県十津川村	34.0	135.8
7	福島県天栄村	37.3	140.0	22	奈良県東吉野村	34.4	135.6
8	茨城県北茨城市	36.8	140.7	23	鳥取県都家町	34.4	134.3
9	埼玉県東秩父村	36.0	139.2	24	岡山県庄原市	34.8	133.8
10	千葉県八日市場市	35.7	140.7	25	広島県庄原市	34.9	133.0
11	千葉県市原市	35.3	140.2	26	香川県高松市	34.2	133.9
12	神奈川県松田町	35.4	139.1	27	高知県香北町	33.7	133.9
13	新潟県新津市	37.8	139.1	28	福岡市	33.5	130.3
14	富山県大野町	36.5	137.4	29	宮崎県田野町	31.8	131.3
15	石川県吉野谷村	36.4	136.6	30	鹿児島県喜入町	31.4	130.5

[結果と考察]

H^+ , $nssSO_4^{2-}$, NO_3^- , $nssCa^{2+}$ 年降下量の推定値の分布を図1に示す。 H^+ 年降下量は、九州中部から四国南西部などの地域で多く、次いで北陸を中心とした地域、北海道中西部の地域で多かった。

$nssSO_4^{2-}$ 年降下量は、東北北西部と北陸を中心とした地域、関東南東部で多く、次いで中国西部、四国中西部、北西部を除く九州の地域で多かった。

NO_3^- 年降下量は、関東南東部で多く、次いで北陸から関東にかけての地域、東北北西部で多かった。

$nssCa^{2+}$ 年降下量は、北海道南部、東北北部、関東南東部の地域で多かった。

平成3年度の結果と比較すると、分布の状況は、一般的にほぼ同様の傾向であったが、平成4年度は、年降下量のレンジがやや異なる地域があること、北海道中西部で H^+ 年降下量が、関東南東部で $nssSO_4^{2-}$, $nssCa^{2+}$ 降下量が多いことなどが特徴として挙げられた。

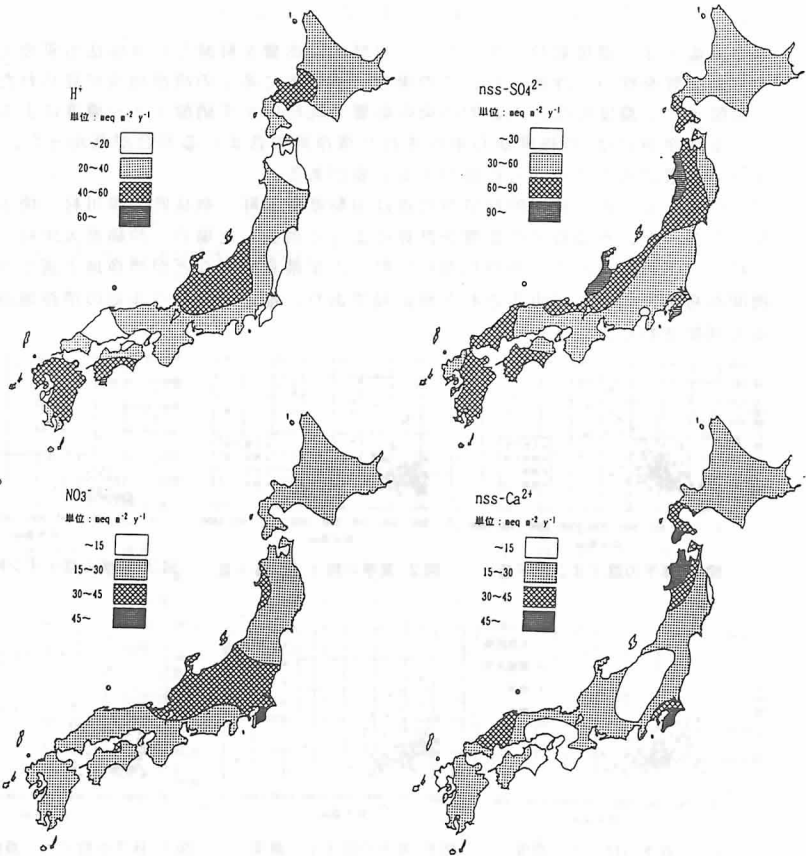


図1 成分年降下量分布（単位：meq/m²/y r）